

43. ウナギガマ・雑魚とり

井路ではフナやウナギが、神崎川ではシジミも採れた。それなりの漁具の工夫を見れば大切なタンパク源だったようだ。大雨には魚が上ってくる豊かな自然があった。

ウナギガマ

A はウナギガマ。全長 168cm、先は 14cm 下がって鋭く 5cm 返る。
井路舟に乗ってウナギガマで搔くと、あいさにパーッと引っ掛かる（別府）。
井路でウナギを捕った。ウナギガマは宇野辺の鍛冶屋に打たせた（鳥飼下）。

ヤス、サデアミ

B はヤス。全長 224cm、刃先幅は 6cm。
C はサデアミ（叉手網）。鳥飼上の I 氏の納屋のもので、D は復元図。

樋門を越して魚がのぼる

井路にはメダカやフナがいた。5～6 月の大雨の時に魚が上がってくる。モンドリの口を下流に向けて仕掛けると、井路を上る魚がよくかかった。フナ・ハス・エビが樋門の板を越した。ウド小屋の溝にまでドジョウが来た（一津屋）。

神崎川にはシジミがいた（一津屋）。淀川でフナ・コイ・エビ・モロコ・ハスを捕った。トアミ（投網）は絹糸を柿渋で染めるともちが良い。網は家で編んだ（鳥飼上）。

アンコで捕る

竹で編んだモンドリをアンコといった。アンコを宵にもって行って井路に伏せておくとジャコがピチピチッと入っていた（別府）。餌なしでフナ・モロコは入った（鳥飼八防）。ドヒ（土樋）にもモンドリを仕掛けた。ドヒは畦の下を潜らせた土管で三寸土樋、五寸土樋など（一津屋）。上の田から下の田へ段差のところに仕掛けるとよく入った（別府）。ドジョウはウゲ（筥）で捕った（鳥飼下）。土用丑にドジョウを食べた（別府）。

ビンアンコを仕掛ける

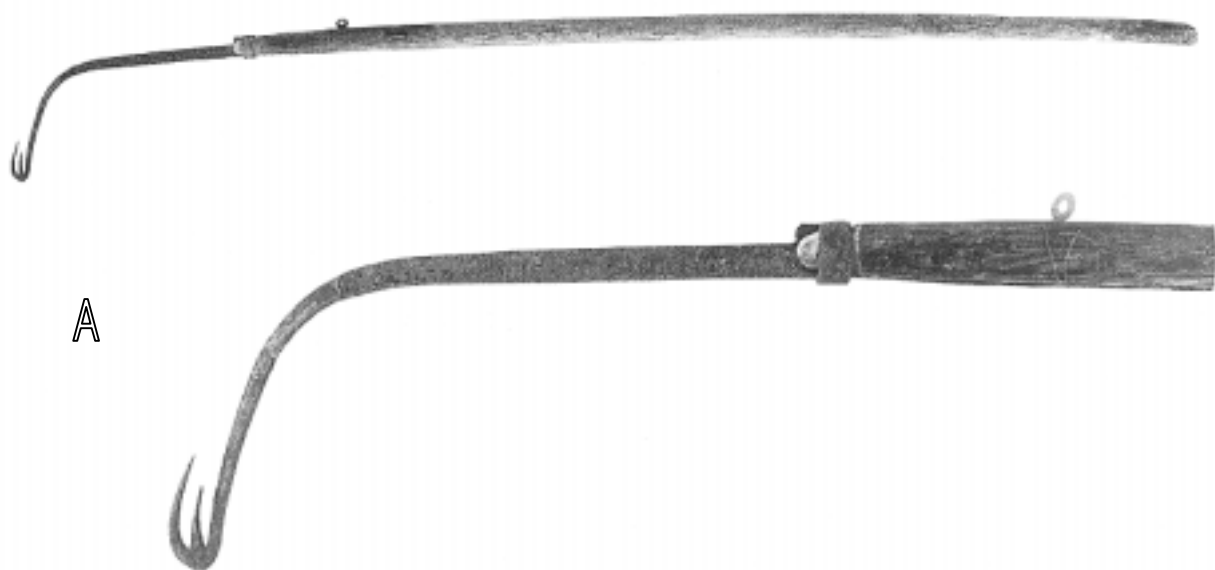
瓶を使ったモンドリをビンアンコといった（一津屋）。

米ぬかをホウラクで炒って、ビンアンコのお尻からスプーンで 2～3 杯入れる。朝 10 本ほど漬けておくとジャコが入る。きれいな井戸水に漬けてからジャコマメに炊いてもらった。セルロイドアンコもあった（鳥飼八町）。ビンアンコは漁師が使った（鳥飼下）。

ジャコマメ

ジャコはカンテキでゆっくり豆と煮てジャコマメにした（一津屋）。

「別府のジャコマメ」いうて、親戚にあげると喜ばれた（別府）。



A

B



C



D

